

## 【西区】令和 5 年第 1 回区づくり推進横浜市会議員会議 議事録

開催日時	令和 5 年 2 月 14 日 15 時 30 分 ～ 17 時 00 分
場 所	西区役所 3 階 3 B 会議室
出席者	<p>【座長】清水富雄議員</p> <p>【議員：2 名】清水富雄議員、荻原隆宏議員</p> <p>【西区：18 名】菊地健次区長、落合明正副区長、玉崎悟福祉保健センター長、山本千穂福祉保健センター担当部長、小野医務担当部長</p> <p>山浦善宏土木事務所長、西川浩二消防署長、ほか関係職員</p>
議 題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 令和 5 年度 西区編成予算（案）</li> <li>2 令和 5 年度 西区編成予算（案）主要事業</li> <li>3 新型コロナウイルス感染症への対応状況</li> <li>4 デジタル区役所モデル区に係る取組</li> </ol>
発言の 要 旨	<p>【令和 5 年度 西区編成予算（案）】</p> <p>【令和 5 年度 西区編成予算（案）主要事業】</p> <p>&lt;区制 80 周年記念事業&gt;</p> <p>荻原議員：区制 80 周年記念事業では、西区の 90 周年に向けて今後 10 年間でどのように皆で取り組むかという、目標の共有化が非常に大事になると感じている。例えば、市長が言っている子育てしたいまち横浜にしようとか、社会全体で言われている共生社会を作ろうとか、社会包摂性を大切にしようといったようなことを、改めて西区の皆さんと共有できるイベントになったら良いと思っている。区長の 80 周年にかけた目標、その点について考えを聞かせていただきたい。</p> <p>菊地区長：昨年区長になり、来年は区制 80 周年という大変意義深いときに携わらせていただき、本当にありがたく感じている。コロナの 3 年間で顔の見える関係がなかなか築けなかったつらい状況だったということもあり、まずは、つながりを大切にしていけることが第 1にあると思っている。区民の方々、企業の方々、区役所、皆で力</p>

を合わせていかないと、この厳しい社会情勢に太刀打ちできないと考えている。中期計画では子育てを一つ大きな目標に掲げている中で、次世代をともに育むということも大切だと考えている。子育てにかかわる世代全体、あとは高齢の方々も含めて全世代で皆がつながりを強固にしていくことがとても大切だと思っている。まずはつながりを大切にし、皆が幸せになるよう、笑顔を大事にできるような西区になっていくようにしたいと思っている。

**清水議員**：私の知り合いに「中区戸部3丁目で生まれたんだよ。」と言っている方がいた。西区は区制80周年が近づいているが、西区民の歴史というのは、中区時代からずっと続いている。そういう気概を持って、80周年をやっていきたいと思っている。

**菊地区長**：私は橋梁課長だったが、関東大震災後の復興の象徴として西区には多くの震災復興橋梁が残り、今も現役で区民の生活を支えている。関東大震災から今年で100年経ち、その時代は中区だったとしても、そういった橋のような西区を越えた過去の歴史というものがある。温故知新の古きを偲び新しきを知るという意味で、後世に伝えられるよう取り組んでいきたい。そのためにも過去の歴史を知っているお年寄りの方々のお話もよく聞きながら、これからの未来に向けて新しい想像力を発揮して取り組んでいきたい。

#### <子育て支援の推進>

**荻原議員**：赤ちゃん教室ですが、年10回×9会場ということで、いろいろな場所で数多く開催されていると思う。コロナ禍で、活動が制限される部分もあり、苦勞もあったかと思うのだが、どのような状況だったか。また、大盛況だと聞いているので、場所について少し広い場所にしたほうが良いこともあるかと思う。この赤ちゃん教室については、増やしていく予定か。

**八木こども家庭支援課長**：コロナ禍では、通常90分間ぐらいで行うところを子供の月齢に合わせて2回に分けて、密にならないよう配慮しながら開催をしてきた。赤ちゃん教室はお住まいの地域で親同士の仲間作りにつなげていただきたいということで、地区担当の保健師が地域に出向いて歯磨きや栄養についての話など毎月のメニューを、プログラムを持ち開催している。この3年間は、月齢に合わせて話ができるよう、2回に分けて入れ替え制で実施してきた。

来年度は親同士の交流が設けられるよう、感染対策を行いながら、1部制として、時間にゆとりを持ち実施したいと思っている。また、会場については、各地域における出生数などの動向を見ながら、対象のエリアを分けているが一つの会場に人が集中しないよう毎年見直しながら、9会場で実施をしている。今年度の実績としましては大体一会場12組ぐらいということで報告は上がっているが、会場もケアプラザから自治会館など、様々な場所で開催をしており、手狭になった会場については随時、新しい会場を見つけて開催しており、来年度も同様である。会場がいっぱいで参加できず残念に思わないよう寄り添って対応してまいりたい。

**清水議員：**プレパママクラスの区役所以外で6回というのはどこのことか？

**八木こども家庭支援課長：**今年度は地域子育て支援拠点で3回、フクシアで2回、ケアプラザで1回ということで6回開催した。次年度については会場を調整しており、今後、公表していく予定である。

<商店街及び「まち」のにぎわい創出事業>

**荻原議員：**商店街スタンプラリーについては大変ありがたく感じている。藤棚商店会も頑張り、台紙がどんどんはけていき、2回ぐらい追加が必要になった。今はコロナ禍からリカバリーするところで、地域の皆さんも非常に楽しみな、そういう心持ちだと思う。令和5年度も、こういった取り組みを頑張っていたきたいと思う。そこで、本当に率直なところの意見だが、ぜひ景品を充実してほしいという声がある。冊子が非常にかわいらしくできているが、これをもう少し簡素にして、その分を景品にかけてほしいという声もある。ちょっとそのあたりの考えを聞かせていただきたい。

**畠山地域振興課長：**令和4年度の西区商店街スタンプラリー事業では応募者全体の約83.2%の方が西区民の方であった。藤棚町も含めて、大勢の方に参加いただき、景品の応募もいただき、にぎわい創出に繋がられたと考えている。台紙の件については、実施期間が相当長く1ヶ月弱ということ、雨天のときに持ち運ぶなど、そういったことを考えると、耐久性や防水性、そういったものが一定程度求められるため、今の台紙に至っているという状況である。景品については、新型コロナウイルス感染症の影響で見送っていた企

業協賛の再開を考えている。来年度は、西区商店街スタンプラリーを実施するにあたり、商店街連合会も含め様々な企業に声掛けをして、協賛を増やしていきたいと考えている。

**荻原議員：**地域の皆さんも喜ぶと思うので、ぜひ取り組んでいただきたい。それから西区情報発信事業について、美味しいお店や物販店などを、グーグルマップにリンクすることは可能なのか。最近、ナビでパーキングを探してそのパーキングを探すと下の方に、この辺りの美味しいお店などが出てくると思うが、そういうリンクができるのであれば、非常に効果があると思うので、よろしく願いたい。

**篠村デジタル・デザイン室担当係長：**技術的には可能かと思うので、そういうことも検討していきたい。

**清水議員：**ベイバイクのステーションを西区内にずいぶん増やしたと思うが今この利用率は西区がナンバーワンだと聞いている。元々商店街としても自転車大歓迎と、中央商店会あたりが声を出したことの影響もあると思う。気軽に自転車で買い物や食事できるようにし、例えば、みなとみらいに来た海外の人に自転車に乗って藤棚商店街に来てもらう、そういうことを目指せたらと思う。ぜひ自転車大歓迎・来店大歓迎という合言葉でいけたらと思っている。

**畠山地域振興課長：**ベイバイク事業については、平成26年4月1日から開始され、令和6年3月31日で一旦事業が終了してその後切り替えるということだが、この間に実施規模が拡大しており、今は全体で113ヶ所、このうち西区内に41ヶ所ということで、登録者も軒並み増えている状況にある。商店街などに来る方が増えるように、商店街から発信したり、回遊性の向上をはかるために都市整備局と調整していきたいと考えている。

#### <スポーツ振興事業>

**荻原議員：**インクルーシブスポーツについては、小学校におけるスポーツ体験会のところであげているが、全体の取り組みとして位置づけていただきたいと思う。

**畠山地域振興課長：**小学校におけるスポーツ体験会として、令和4年度は4小学校で開催をした。令和5年度は、トップスポーツクラブチームと連携してインクルーシブスポーツ等の体験会を実施していき

たいと考えている。今後は校庭体育館のみならず地区センターなども有効に活用して、関心を高めていきたいと思っている。小学生だけではなく親子による体験、地域との連動、そういったものも含めながら拡充していきたいと考えている。

**荻原議員：**インクルーシブ教育は、教育委員会の中にこもりがちな話ではあるが、本当は学校の中での育ち、そして社会への巣立ちまで全部ひっくるめてインクルーシブ教育であると考えている。本来的なインクルーシブ教育を達成するためには、インクルーシブ社会自体の成長がないと巣立ちも果たせないということだと思う。そのインクルーシブ社会の推進という意味から、インクルーシブ教育として、実際に子供たち同士で、障害があるお子さんが、一般級の子供たちと体育館や校庭で遊ぶという、そういった交流がすごく大事だと思っている。そういうことは教育委員会や健康福祉局との連携も欠かせないと思うし、いろんな局や職種との連携が欠かせないと思っている。健康福祉局からは、インクルーシブスポーツや障害者スポーツの拠点が北部の新横浜に集中しており、南部の方にとっては遠いことから、南部にも同規模の障害者スポーツ施設が望まれるのだが、なかなかそれも難しいと聞いている。上大岡に小規模のものができたが、今後は、地域ごと、それぞれ分散して取り組んでいきたいということである。ただ具体性を持って、西区が健康福祉局や教育委員会とどのように連携していくか、スキームが深堀りできていないのではないかとと思っている。この点はもし可能であれば西区として、一つ大きな目標として、課題意識を持ち、各局と繋がってもらい、特に子供同士が障害のあるなしに関わらない世界とはどういうものか実際に学校教育の中で経験するという場面を作ってもらいたいと考えている。

**落合副区長：**インクルーシブの考えについては、区制 80 周年の目的にもつながると思うが、スポーツに限らず、文化などいろいろなところで本当に必要だと思っている。今回の中期計画や予算案にある子育てしたいまちの子供の中には、障害がある形で生まれてくる子供もいる。今一度、区役所全体で考えていきたいと思っている。

**荻原議員：**障害があるなしを超えた子供たち同士の交流というのは、本当に感動的である。一度特別支援学校で、一般の子供たちが訪れてきて、体育館で、一般の子供たちが合唱して、それを肢体不自由の

子供たちがじっと聞いて、ありがとうとエールを交換し合うことがあった。そういった実際のふれあいというのが、学校教育の非常に素晴らしいところでもあると思う。それを更に地域の皆さんとも一緒にできれば、非常に良いと思うので、ぜひお願いしたい。

<西区ヨコハマ3R夢推進事業>

**清水議員：**ワークショップをJR横浜タワー2階の最高の立地のところでいて驚いた。横浜駅のあの場所だと、西区の行事というかオール横浜で取り組めるようなスケールの大きいイベントだと感じた。このとき所長をはじめ職員の皆さんが生き生きと対応されておりとてもよかった。今後も何かのときにあの場所を使用させていただければ良いと思った。それと関連して、横浜駅西口周辺の清掃活動について、資料に載っている横浜平沼高校は出身校でもあるので誇らしく感じるが、これは横浜駅だけでなく、地域の清掃や、いろいろな集積場のことでもあると思う。この点について考えを聞かせてもらいたい。

**海老澤資源化推進担当課長：**ワークショップについては、JR東日本グループの横浜ステーションシティ運営協議会から横浜市政策局共創推進課を通じてマッチングして行ったイベントである。横浜駅西口周辺の清掃については、一般社団法人横浜西口エリアマネジメントが中心となり、横浜平沼高校の生徒の力を借りて行った。周辺の集積場所については、今後、実施方法など、いろいろ検討して、地域一体で取り組んでいけたらと思っている。

**【新型コロナウイルス感染症への対応状況】**

**荻原議員：**今後、感染拡大と収束の両方のパターンを想定しているか教えていただきたい。地域の皆さんが、イベントを再開すべきか、苦勞されて判断されているところがある。ウィズコロナという時代が本格的に始まると思うが、区役所が万全の体制でいることが、その地域の皆さんが安心してイベントを再開していく大きなポイントになってくると思う。ぜひ両方の想定の中での体制作りをお願いしたい。

**玉崎福祉保健センター長：**今後、致死率が上がるような変異株が出る可能性もあるので、感染者が増えた状態についても想定して取り組んで

まいりたい。区民の方の健康が第一なので、それを最優先に、体制を整えていきたいと考えている。

**清水議員**：区内で、コロナで亡くなった方の状況について教えてもらいたい。

**玉崎福祉保健センター長**：昨年、一昨年と秋のデルタ株の頃は40代50代の方が5、6日目に急変して、コロナを原因として亡くなるが多かった。今は、コロナの患者ではあるが、老衰や持病などが原因で亡くなるが多くなっている。西区には、高齢者施設が複数あるので、そういった施設でも、感染後、老衰や持病で亡くなる方がいるといった状況である。

**清水議員**：インフルエンザなど他の感染症も流行しているのか。

**玉崎福祉保健センター長**：インフルエンザは増えてきており、小学校でも学級閉鎖が報告されている。その他の感染症として、ノロウイルスがあり、ここ2年くらいコロナの影響で手洗いうがいを適切に行ってきたため感染が減っていたのだが、今シーズンはノロウイルスによる食中毒が増えている状況である。また性感染症の梅毒も増えている状況である。区役所として、感染症に対しては万全の態勢で望んでいるが、何かあった際には、ご協力をお願いできればと思っている。

**清水議員**：経済を回していくことを考えれば、アクセルも踏まなきゃいけないことはあると思うので、マスクやいろいろなものを使いつつ感染症対策を行いながら経済を活性化していく、という両建てだと思う。イベントについても勇気を持ってやろうという人もいれば、まだちょっと先送りしようという人もいるように、ブレーキを踏みながらアクセルを踏むみたいなことがしばらく続くと思うが、西区の元気が戻るようにしていけたらと思う。

#### **【デジタル区役所モデル区に係る取組】**

**荻原議員**：実際に、極めて大きな災害が発生したときにどれだけデジタルが生き残っているかについては、常に考えておいた方がいいと思う。もう28年前になるが、阪神淡路大震災のとき、兵庫県宝塚市で被災をした。一瞬で世の中が変わり、電気・ガス・水道がなくなり、アナログで整備された街も全てが止まってしまった。電力は非常に早いリカバリーだったが、地域防災拠点のことや、自分がどこに行くべきかという情報を携帯で把握できる機能が残っているか

は、本当にわからないと思う。サーバーがダウンしたら、そこからの情報入手というのは不可能になるし、そういう意味では、デジタルを準備しつつアナログも準備しておくという両面が非常に大事だと感じている。具体的にどう取り組んでいくかは皆さんとお話をさせてもらいながら進めていく部分だと思っている。デジタルを、西区が横浜市を代表して取り組みを進めている中で、一つの課題意識として、ぜひ持ってほしい。この点について、現時点でどのように考えているか伺いたいと思う。地域の皆さんとも、そのことを共有しながら進めていただきたい。

**久世総務課長：**災害時はネットワークの遮断など様々な事態が想定されている。西区はモデル区として進めているが、デジタルの弱い部分をアナログで補完できるように、セットで環境を整えていく必要がある。例えば避難所の受付においても、デジタルが実現できたとしても紙による受付も用意するなど、両方必要であると考えている。総務局の危機管理室もデジタルとアナログをセットで考えているので、西区においても、そのことを忘れずに進めていきたいと思う。

**清水議員：**書かない窓口などの表現は、機械が触れない人は不安になってしまうことがある。区長が区民に寄り添うと言っていたように、伴走型で取り組んでいただきたい。予算をつけたら終わりではなく、その予算の効果は、丁寧に寄り添ってやっていくことで倍増すると思う。西区はかつて窓口業務のナンバーワンであり、そういった部分と、デジタルの部分が一緒になることで、やっぱり西区はいいなと感じてもらいたい。ぜひそのようにお願いしたいと思う。

### 【その他】

<西区の緑化と地域のつながり形成推進事業>

**荻原議員：**藤の花プロジェクトの状況について教えていただきたい。

**佐藤西土木副所長：**藤の花プロジェクトですが、令和2年度から取り組みを始めており、専門家の意見を聞きながら、より多くの花が咲くように、土木事務所管理の公園で取り組んでいる。民間の藤棚もあるので、そういうところにもノウハウを提供して、西区全体として、藤の花が再生していくように順次進めている状況である。区役所近くの戸部公園や西土木事務所近くの浜松町公園では、だい



	<p>ぶ花が咲くようになっている。まだ花が少ない公園や民間施設についても、状況を見守りながら進めていければと思っている。</p> <p>&lt;西区における開発動向等&gt;</p> <p><b>清水議員</b>：みなとみらいの就業人口も増え、市営地下鉄高島町駅周辺は危険な横断が増え、中央分離帯にしている状況である。高島町の安全について所管局任せでなく西区でも声を上げていかなければと思う。その点もよろしく願いしたい。</p>
備 考	